

安全データシート

改訂日 2017年3月31日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : 硝酸リチウム、(Lithium nitrate)
会社名 : チカモチ純薬株式会社
住所 : 大阪府大阪市北区大淀南1-9-16(山彦ビル)
電話番号 : 06-6453-2062
FAX番号 : 06-0453-2063

推奨用途及び使用上の制限 実験試薬、熱交換媒体、ロケットの推進薬、花火の打ち上げ及びセラミック。また、他の塩とともに加硫のための共晶融解溶液として使用される。硝酸カリウムとの混合物は商品名「Sabalith」として使用される。

2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類実施日H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

物理化学的危険性	火薬類	区分外
可燃性・引火性ガス		分類対象外
可燃性・引火性エアゾール		分類対象外
支燃性・酸化性ガス類		分類対象外
高压ガス		分類対象外
引火性液体		分類対象外
可燃性固体		分類できない
自己反応性化学品		分類対象外
自然発火性液体		分類対象外
自然発火性固体		分類できない
自己発熱性化学品		分類できない
水反応可燃性化学品		区分外
酸化性液体		分類対象外
酸化性固体		区分3
有機過酸化物		分類対象外
金属腐食性物質		分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない

急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
吸引力呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性 水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素



絵表示又はシンボル

注意喚起語 危険

危険有害性情報火災助長のおそれ:酸化性物質
生殖能または胎児への悪影響のおそれ

注意書き

【安全対策】

- 熱から遠ざけること。
- 禁忌物質から遠ざけること。
- 可燃物との混合を回避するために予防策を取ること。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 適切な個人用保護具を使用すること。

【応急措置】

- 火災の場合には適切な消火方法をとること。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に業務委託すること。

国・地域情報

3. 組成及び成分情報

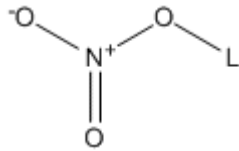
化学物質

化学名又は一般名 硝酸リチウム

別名 硝酸リチウム (Lithium nitrate)

分子式 (分子量) LiNO_3 (68.945)

化学特性 (示性式又は構造式)



CAS番号 7790-69-4

官報公示整理番号(化審法・安衛法) (1)-765

分類に寄与する不純物及び安定化添加物データなし

濃度又は濃度範囲 100%

4. 応急措置

吸入した場合 医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 水と石鹼で洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状 吸入: データなし

皮膚: データなし

眼: データなし

経口摂取 : データなし

最も重要な兆候及び症状 データなし

応急措置をする者の保護 データなし

医師に対する特別注意事項 データなし

5. 火災時の措置

消火剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤(水素化炭酸塩を除く)、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 炭酸ガス、水素化炭酸塩の粉末消火剤
特有の危険有害性 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。

加熱されたり、火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。

容器が熱に晒されているときは、移動させない。

消火を行う者の保護 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項 環境中に放出してはならない。

回収・中和 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項 取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
熱から遠ざけること。

可燃物との混合を回避するために予防策を取ること。
 使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 皮膚との接触を避けること。

保管	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	技術的対策	消防法の規制に従う。
	混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	保管条件	容器を密閉して冷乾所にて保存すること。 熱から離して保管すること。 禁忌物質から離して保管すること。 可燃物との混合を回避するために予防策を取ること。
	容器包装材料	データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定 (2009年度)
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	日本産衛学会 未設定 (2009年度) ACGIH 未設定 (2009年度)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	呼吸器の保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	形状	固体	三方晶系の結晶: Lide(88th, 2008)
	色	無色	
	臭い	データなし	
	pH	pH: 7 (水溶液): HSFS (2008)	

融点・凝固点	253°C : Lide(88th, 2008)
沸点、初留点及び沸騰範囲	600°C : 混触危険Hb (第2版, 1997)
引火点	データなし

自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	2.38g/cm ³ : Lide(88th, 2008)
溶解度	102g/100g H ₂ O(25°C) : Lide(88th, 2008) エタノールに可溶. : Lide(88th, 2008)
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	可燃性物質との混合
混触危険物質	可燃性物質
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入	吸入(ガス): GHS定義における固体である。
	吸入(蒸気):	データなし
皮膚腐食性・刺激性	吸入(粉じん・ミスト):	データなし
		“データがなく、分類できない。 接触により、刺激及び炎症を起こすとの記述がある(HSFS (2008)).”
眼に対する重篤な損傷・刺激性		“データがなく、分類できない。 接触により、刺激、火傷及び炎症を起こすとの記述がある(HSFS (2008)).”
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:	データなし
	皮膚感作性:	データなし
生殖細胞変異原性		データなし

発がん性 データなし

生殖毒性 本物質のデータはないが、リチウムを治療目的で摂取していた226名の妊婦に25名の先天性奇形を生じた。妊娠の可能性のある女性に対してリチウムは禁忌になっている（ACGIH（2001））。またリチウムは“Chemically Induced Birth Defects”(Birth Defects 3rd.(2000))で催奇形性物質としてあげられており、“Catalog of Teratogenic Agents”(Teratogenic 12th(2007))でもリチウム服用の妊婦において心臓奇形の出産報告が複数あり、ヒトに対する催奇形性が示唆されていることにより区分1Aとした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) “データがなく、分類できない。
吸入により呼吸器、消化器及び中枢神経への影響がみられるとの記述がある（HSFS（2008）、SITTIG（5th, 2008））。”

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) ラットを用いた7週間経口投与試験において、ガイダンスの区分2に相当する119mg/kg/日の用量(90日換算83.3 mg/kg/日)で赤血球減少、白血球増加及び高血糖が確認され、ラットを用いた4週間経口投与試験のガイダンスの区分2に相当する238 mg/kg /日の用量(90日換算74.4 mg/kg/日)で血液及び肝および腎組織中の酵素活性の抑制又は誘導、腎組織の変化が確認された(いずれもRTECS(2007); Biological and Pharmaceutical Bulletin. 28, 834 (2005))との記述があるが、リスト3のデータであり、詳細が不明であることから分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性 データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 データなし

水生環境慢性有害性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 IMOの規定に従う。
UN No. 2722
Proper Shipping Name. LITHIUM NITRATE
Class 5.1
Packing Group III
Marine Pollutant Not Applicable
航空規制情報 ICAO・IATAの規定に従う。
UN No.
Proper Shipping Name. Lithium nitrate
Class 5.1
Packing Group III

国内規制

陸上規制情報 消防法の規定に従う。
海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。
国連番号 2722
品名 硝酸リチウム
クラス 5.1
容器等級 III
海洋汚染物質 非該当
航空規制情報 航空法の規定に従う。
特別安全対策 移送時にイエローカードの保持が必要。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、
漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号 140

15. 適用法令

水質汚濁防止法 有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)
消防法 第1類酸化性固体、硝酸塩類(法第2条第7項危険物別表第1・第1類)
船舶安全法 酸化性物質類・酸化性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法 酸化性物質類・酸化性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

コメント

この安全データシート(SDS)は、JISZ7253:2012 に準じており、記載されている内容は、発行時点において、入手可能な情報・データに基づいて作成しています。運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先に、ご自身の責任においてご使用下さい。また、ここでの注意事項は通常の手配り方をすることを前提に記載しており、他の製品と混ぜ合わすなどの特殊な取扱い方法は想定していません。その際は、使用環境に適した安全対策を自ら実施し、安全確保の上、ご利用下さい。なお、全ての製品には、未知の危険性を有する可能性があります。新たな知見が得られた時は、許可無く変更する場合があります。また、物性値や危険有害性情報などは、弊社製品規格書等とは異なることもありますが、いかなる保証をなすものでもありません。